

うの さえこさんのお話全文

(2014年3月8日バイバイ原発きょうと)

福島市に3年前は住んでいました。昨年4月から京田辺市にお世話になっています。

あと3日で3月11日がやってきます。3年前のあの日福島市はとっても寒く、今にも雪が降りそうな灰色の空を思い出します。あの日から今日までやむことのない原発震災の中で亡くなっていったすべての方の命に祈りを捧げたいと思います。たくさんの方が命が失われそしてその未来を変えられました。避難の困難の中で亡くなっていった命、津波を生き延び助けを求められながら失われた命、絶望の中で自ら断たれた命、原発の収束作業の中で失われた命。動物、鳥、魚、虫たち、無数の小さな命たち。

私は福島市でしたので津波の被害には遭いませんでした。でもこうやってたくさんの方が命が失われていく中で私は偶然にも生き延びているのだと。そしてたくさんの方の支えがあって生き延びているのだと感じています。

この集会で挨拶のお話があって何を話せばいいのかと悩んできましたが、時がたつにつれて誰にどのように何を伝えればいいのかとても難しいと感じています。

まず伝えたいことは皆さんにお礼を言いたいです。被災者、避難者たくさんの方の支援をいただけてきました。本当にありがとうございます。

それから開会の挨拶をされた佐伯さんのように長い間、原発・核の問題に警鐘を鳴らし続け声をあげてくださった皆さん本当に今までありがとうございました。

ここにたくさん来ていると思いますが被曝から移住してきた方、京都には本当にたくさんの方が来ていて新しい暮らしをたてようと必死で頑張りを続けてきています。その中で雇用や検診や健康相談会や子ども支援法や原発の問題、瓦礫の焼却問題、避難者自身が立ち直るための様々な交流の場を避難者自らが支援者と共に今まで続けてきたと思います。本当に敬意と感謝の気持ちを申し上げます。

この三年間一人一人が必死に生きてきました。まるで戦争の中で生きているような気がします。最近になってそれが増々現実味を帯びてきているように感

じています。一方では軍国化のような流れ、そして先ほど地脇さんがお話になったように福島を始めとして汚染がある地域では被曝の受忍が強要されるような流れ、原発が再び推し進められようとしている流れ。この三つの流れの中で私たちが手を結びあってそれぞれの場所で声をあげ続けていきたいと思います。

これから読み上げるのは事故に遭って三か月後に広島で読んだものですが一部を変えて三年後の今日にもう一度読ませていただきます。

目を凝らしましょう

見えない放射能に

原発事故発生後五日間で放出された放射能は77万テラベクレル
チェルノブイリ事故の七分の一、広島原爆の470個分のセシウムが
環境中に解き放されてしまいました

そして毎日

空へ、海へ、大地へ大量の放射能が流れ出ています
それらは生物に入り込み蓄積されています

目を凝らしましょう

今、命を削りながら必死の作業を続けている人たちがいます
大量の被曝を強いられ恐怖と疲労の中で
私たち社会の命運をかけて働く人たち
愛する息子が今日も原発事故現場へと家を出ていくのを
たまらない気持で見送る母親がいます

目を凝らしましょう

今、たくさんの人々が被曝を受忍する暮らしを強いられています
チェルノブイリの強制避難地区と同じレベルの汚染地で
人々が普通の暮らしをするように求められています
除染しても戻ってしまう放射線量
野積にみされる、谷を埋めるプレコンパック
発見され続ける甲状腺がんや健康の不安
いつしか人は疲れ果て
放射能への警戒心を手離していきます
大丈夫なのかもしれない、仕方ないと人々は村に帰り
田植えをします
子ども支援法をねじ曲げられ

帰還政策と安全キャンペーンが推し進められていきます
本当の自由と権利を奪われ
人々の間に分断がさらに押し付けられています

目を凝らしましょう。

たくさんの人々が命と最小限の荷物を持ち避難しました
怒りと悲しみを抱え
命を守りたい強い意思を持ち
新しい暮らしを選択した人々が
ここ京都で、この地で未来を探しています
原発という存在、死の灰という恐ろしさを
身をもって味わった人々が勇気をもって声をあげています

耳を澄ましましょう

赤ん坊の寝息 子どもたちの笑い声に
この世界を信頼し裸で生まれてくる赤ちゃん
世界のすべてを吸収して日々成長する子どもたち
私たち大人はそれにどうこたえるのでしょうか

耳を澄ましましょう

まだ生まれぬ命たちのささやきに
私たちの命が希望を託す
この小さな声たちが何と言っているのか
聞き取れるのでしょうか

耳を澄ましましょう

生きている地球の鼓動に
私たちは動く大地の上に町を建て
一瞬の命をつないで生きてきました
次の巨大地震はいつどこに来るのでしょうか

耳を澄ましましょう

自分の心の声に
もう二度と3・11 3月11日以前に戻ることはありません
海にも空にも大地にも放射能は降り注ぎました
私たちは涙を恐れません

私たちが恐れるのは嘘です
幻想の上に町を再建することです
人々が被曝し続けることです
声なき無実の命たちの未来が奪われていくことです
私たちは変化を恐れません。
恐れるのは悲劇を直視せず
悲劇を生み出した社会に固執し続けることです

私たちの中の原発に私たちは気づいています
私たちはそれを乗り越えていきます。声をあげ続けます
私たちは行動し続けます
人間性への深い信頼を抱き連帯なくつながります

目を凝らしましょう
未来の世界に
人々が放射能におびえることなく 被曝を強いられることもなく
地球という自然に調和し
つつましく豊かに暮らす世界に

ありがとうございました。